

東京大学経済学部資料室所蔵「ケインズ/ハロッド文書」の再整理

福田 名津子

1 はじめに：「ハロッド文書」とは

ロイ・ハロッド Sir Roy Forbes Harrod (1900-1978) は動態経済学の分野で国際的名声を博した経済学者¹⁾で、オクスフォード大学ニュー・カレッジで教育を受けた後、1922年に同クライスト・チャーチの講師に就任、1924年から1967年までは「ステューデント²⁾」として近代史および経済学を担当した³⁾。ジョン・メイナード・ケインズ John Maynard Keynes (1883-1946) やフランシス・イシドロ・エッジワース Francis Ysidro Edgeworth (1845-1926) らとの交流から経済学を学び、『ケインズ伝』*Life of John Maynard Keynes* (1951) の執筆でも知られる。ハロッドの活動は大学内にとどまらず、1940年から1942年にかけてはウィンストン・チャーチルの呼びかけによる統計部門 S-Branch の顧問、1952年から1953年にかけて国際通貨基金 (IMF) 顧問、1962年から1964年にかけてイギリス王立経済学会会長を歴任した。

ハロッドは多数の個人文書を残しており、それらは死後7つに分割されて現在3つの地域で保管されている⁴⁾。すなわち日本では東京大学・名古屋商科大学・千葉商科大学、アメリカではジョージタウン大学、イギリスでは大英図書館が彼の資料を所蔵している。7コレクションの内訳は、各大学に1コレクションずつと大英図書館に3コレクションとなっている。

東京大学所蔵の「ケインズ/ハロッド、その他経済学者書簡、覚書⁵⁾」(以下「ハロッド文書」と略記する⁶⁾) は1989(平成元)年12月に教育研究特別経費を用いて購入された。販売元はイングランドにあるハミッシュ・ライリー＝スミス

Hamish Riley-Smith Rare Books and Manuscripts といい、同書店は資料全227点を整理し33ページにわたる目録を作成した⁷⁾。「ハロッド文書」は1999年に電子化され、目録もHTML形式で公開された。ライリー＝スミスによると同資料は以下6つのカテゴリに分類される。

- I. John Maynard Keynes: Correspondence with Roy Harrod 1922-1928
- II. John Maynard Keynes at the Treasury: January 1941 - February 1943
- III. Keynes at Eton and Cambridge: Recollections by His Best Friend & Contemporary⁸⁾
- IV. Roy Harrod's Economic Memoranda and Papers: November 1941 - January 1943
- V. Roy Harrod's Economic Correspondence: November 1941 - January 1943
- VI. Roy Harrod's Correspondence from Economists & Others

「ハロッド文書」は書簡類と文書類から構成されている⁹⁾。書簡類の発信者にはロイ・ハロッド、ジョン・メイナード・ケインズ、フリードリヒ・ハイエク、フランシス・イシドロ・エッジワース、リチャード・ホプキンス、ジョーン・ロビンソン、ジョン・ヒックス、アーヴィング・フィッシャーといった名だたる経済学者が含まれており、文書類は1941年から1943年にかけてイギリス政府の経済政策に関わるものが多数を占める¹⁰⁾。当時ハロッドはS-Branchの顧問を務めており、「首相の最も近くにいた人物」のひとりであった。

筆者は2018年8月から「ハロッド文書」の再整理を担当した。当初は目録のデータを切り分け

て資料を保存用中性紙封筒に入れ替えるという 2 種の作業を想定していたが、目録に不備が認められたためにこれを修正する作業も追加された。以下、目録の修正・目録の特徴・統計的分析・資料保存方法に関して報告する。

2 旧目録の修正

ライリー＝スミス作成の目録（以下「旧目録」と略記する）の書誌記述はメタデータが諸要素で区切られることなく「ひとつづき」であり¹¹⁾、これらを切り分けて整える作業を行うことになった。その後メタデータと原資料の照合を行ったところ旧目録の記述に問題が見つかり、アーカイヴズ学的観点から 4 種の修正を施すことにした。第 1 に、数量単位がページになっているのをすべて枚数で数えなおした。第 2 に、複数資料が 1 エントリ扱いされているものは、メタデータを切り分けた。たとえば 1 エントリ扱いされている資料番号「26-27」には書込みの異なる同一資料が 2 点、資料番号「41」には「2 copies」の注意書きを伴って同一資料が 2 点含まれていた。一見合理的ともいえる記述だが資料点数とエントリ数の一致が望ましいと考え、前者は「26」と「27」、後者は「44-1」「44-2」とそれぞれ 2 エントリに分けた。また、たとえば資料番号「74」に添付資料と見なせない独立した資料が含まれていたのを「74-1」「74-2」「74-3」「74-4」と 4 つのエントリに分けた。第 3 に、資料に添付されているスリップ状の紙片¹²⁾の情報が旧目録から欠落していたため、このデータを「添付資料」として採りなおした。第 4 に、旧目録にはまったく記載のない資料が 4 点見つかったため、新規エントリを作成した。この資料は 2 種に分けられたのだが既存の番号体系を崩さないため、「S1」「S2-1」「S2-2」「S2-3」と別体系にした¹³⁾。

目録に追加して記述すべき資料が認められた場合に枝番号で処理したり別体系を設けたのは、

長らく使用してきた既存の番号体系を大きく崩さないためである。コンピュータ上のデータしか存在しないのなら資料番号を振りなおす選択肢もあったかもしれないが、「ハロッド文書」の場合はとりわけ冊子体目録との間に生じる齟齬を最小限にとどめる必要性が意識された。同じ理由で、資料の再整理に伴い既存の資料番号に対応する資料がなくなった場合でも番号を繰り上げずエントリを空の状態に残した。

旧目録を修正した結果、従来 227 点と数えられていた資料は 328 点に増えた¹⁴⁾。しかしほとんどは枝番号の追加で処理したため目録の最終資料番号は以前と変更なく 227 となった。ちなみに人名や日付などデータそのものの誤りは 15 箇所見つかри、詳細は表 1 に示すとおりである。

3 旧目録の特徴

ライリー＝スミスの目録はいわば店が商品を売り出す目的で作成されたものであり、図書目録と売立目録の性質を合わせたような独特の記述方式を採っていた¹⁵⁾。旧目録は「作成者」「受信者」「送付元」「手書き・タイプ・印刷の別」「書簡・文書など資料の別」「作成年月日」「ページ数」「署名の有無」「筆記具」「添付資料」「資料の一部翻字」といった 11 の要素に基づく記述からなる。非常に詳細ではあるものの物理的記述という点で十分でなく、資料はページ単位で表記され、複数資料を 1 エントリにまとめた例や添付・同封資料のデータを採用していない例もあった。書簡をページで数えるのはアーカイヴズ学からすると不自然で、図書の目録規則に倣ったものと推測される。図書資料のように冊子の形態を保ちページが正確に打たれていれば冊数とページの情報で「モノの管理」が可能だが、書簡など文書資料の場合は綴じがなく紙葉が物理的単位となるため、枚数の情報がなければ管理できない。この理由から文書整理では「枚数」が数量単位に採用される場合

がほとんどである。なお、代表的な資料のデータを優先させて付属的なデータを省略する旧目録の方針は、顧客の購買意欲に影響を与えない範囲での合理化である可能性が高い。

227 点に及ぶ資料データを丹念に採った旧目録には文書資料に対する誤解や商業的合理化が見受けられ、アーカイヴズ学に基づくというよりむしろ売立目録との親和性を思わせる。アーカイヴ記述の国際規則 ISAD(G) では「マルチレベル記述」が採用され¹⁶⁾、「全体から個別へ」を標語に¹⁷⁾フォンド(資料群)単位の記述を最優先し、シリーズ・ファイル・アイテムの順に資料の階層が低くなるにつれ記述の必要性は相対的に下がる¹⁸⁾【図 1】。

旧目録が ISAD(G)の方針を採用していないのは、時代というよりむしろ「売り手の論理」から理解される¹⁹⁾。書店が商品をより効果的に売りこむには商品概要レベルの情報では不十分で、各アイテムの情報まであったほうが有利に働くためである。ただし、手書き資料の翻字まで行っている点は「売り手の論理」を考慮してもなお高く評価すべきである。「ハロッド文書」はタイプされた資料が多いものの書簡類 181 点のうち 75 点は手書きであり、その一部が翻字されていることは利用者に貴重かつ有益な情報をもたらしている。

4 新目録の統計的分析

連続記述的であった旧目録を各要素に切り分けたため、統計的分析が容易になった。「ハロッド文書」の内訳を分析したところ、資料再整理に伴いメモランダムが 58 点から 141 点に増えた点が目を引く【表 2】。資料全体から見て書簡の占める割合(50.9%)が最も高い事実は変わらないとしても、メモランダムの割合(43.0%)も同様に高いことは新しい発見であった。メモランダムは 1941 年から 1943 年にかけてイギリス政府の経済政

策に関わるものが多数を占め、うち 1942 年が 106 点(75.2%)と圧倒的に多い【表 3】。内容は、第 2 次世界大戦終了後の通貨・金融・財政・農業政策、1 次産品や原材料の国際規制に関するものを多く含む。議事録(案)も含まれているので、個別議論の推移を追うこともあるいは可能かもしれない。

書簡類は 1922 年から 1974 年にかけて 181 点あり、手紙 167 点、葉書・カード 14 点の内訳である。年別に見ると、1942 年が 65 点(35.9%)で圧倒的最多を占める【表 4】。発信者はハロッドが最多で(52 点、28.7%)、これにケインズ(33 点、18.2%)が続く【表 5】。受信者もハロッドが最多で(124 点、68.5%)、これにケインズ(15 点、8.3%)が続く【表 6】。ハロッド宛書簡が最多なのは当然だが、同じくハロッド発書簡(の写し)も最多となっている。発信者にはこのほか、ハイエク、エッジワース、ホプキンス、ロビンソン、ヒックス、フィッシャーといった著名な経済学者が含まれている。

ハロッド発書簡のうちで最も多いのはケインズに宛てた 13 点(25.0%)で、うち 12 点が 1942 年の書簡である【表 7, 8】。ハロッド宛書簡のうちで最も多いのはケインズによる 32 点(26.0%)で、うち 13 点が 1942 年に集中している【表 9, 10】。

以上の統計的分析により、「ハロッド文書」ではメモランダム・書簡とも 1942 年に数量的集中が見られ、書簡に関してハロッドとケインズのやり取りが最多であることが明らかになった。

5 保存・保管方法の改善

旧目録を修正した後で現物資料の保存・保管方法も改善した。1989 年の購入時点で「ハロッド文書」はライリー=スミスによって 6 つのカテゴリに分類され、緑色の布張りをした 3 つの箱に収納されていた²⁰⁾。箱ごとに数量を見ると Box 1 には 77 点 223 枚²¹⁾、Box 2 には 123 点 671 枚、Box 3

には 128 点 164 枚収められており、Box 2 の資料が突出して多かった【表 11】。箱のサイズもこれに応じ、Box 1 の厚みは 65mm、Box 2 は 110mm、Box 3 は 60mm と、Box 2 がその他より 2 倍近くも大きかった²²⁾。カテゴリ分けの秩序を尊重した保管方法であったが、飛びぬけて厚い Box 2 では箱の中で平置きされた資料がたがいに負荷をかけて資料保存の観点から好ましくなかった。

各資料は A4 用紙 2 枚を銅製のステーブルでつなぎ合わせた手製の簡易な封筒に仕舞われ、旧目録の書誌情報を印刷したスリップが同じステーブルで固定されていた。銅製のステーブルは鉄製より上等だが経年劣化して資料を傷める危険性は否めず、そもそも金属であるため資料の紙を引っかいたり重みで押し付けられた資料に跡を残したりという難点があった。また、文書類の多くは A4 サイズより大きく、封筒からはみ出したり折られた状態で収められたりしていた。このはみ出た部分は他の資料と接触して傷みやすく、折られた資料は折れ目が擦れて文字情報が失われてしまう危険性がある。

以上の問題点を解決するため、資料の保存および保管方法を改善することになった。まず資料は全点とも中性紙封筒に入れ換え、2 種のラベルを作製して封筒に貼付した。まず「カテゴリ」「資料番号」は請求記号用ラベルに印刷し、最上位の識別子と見なした【図 2】。しかしこれのみでは利用者が資料を扱う際にもスタッフが資料返却の確

認を行う際にも目録と照合する必要が生じ、運用面で双方にとって不便である。そこで次に、利用者とスタッフ両者に有益と思われる資料メタデータとして「作成者」「タイトル」「作成年月日」「数量」「添付資料」の 7 つを抽出してラベルに印字し、封筒に貼付した【図 3】。

6 おわりに：「ハロッド文書」の意義

「ハロッド文書」の再整理は目録データの切り分けと中性紙封筒への入れ替えという作業に目録データの修正が追加されたため、当初想定していたよりも多くの時間と労力を要した。しかし目録がより正確・精緻化した利点は大きい。メタデータを整備しなおしたことで資料検索はより詳細な条件で可能になり、統計的分析も容易になった。統計的分析では資料の内訳や性質が把握しやすくなり、メモランダム・書簡とも 1942 年に数量的集中が見られ、書簡ではハロッドとケインズのやり取りが最多であることが分かった。この時期は第 2 次世界大戦中にハロッドが大学を離れてイギリス政府に協力していた 2 年間と重なり、ハロッド個人の知性・イギリス政府の動向・世界経済の秩序が交差しているという意味で「ハロッド文書」は非常に意義深い資料であることが改めて確認された。

(ふくだ なつこ：東京大学経済学部資料室学術支援職員)

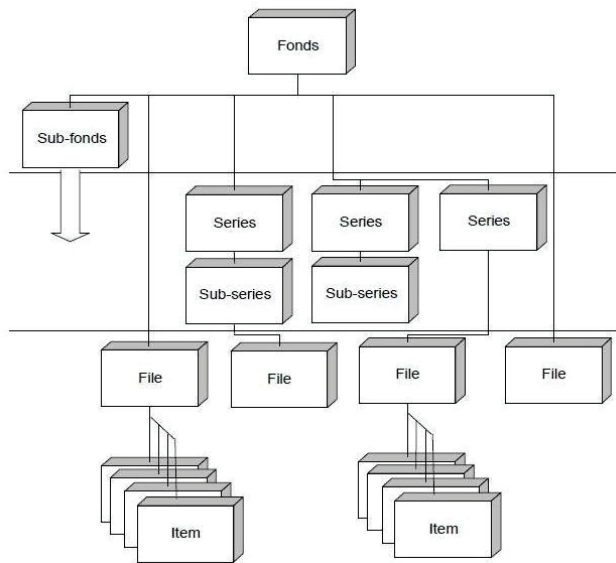


図1 フォンド編成レベルのモデル
Model of the levels of arrangement of a fonds
(ISAD(G), 2nd ed., p. 36.)

Label A (elements)

Subject
Item No.

Label A (sample)

I
2

図2 貼付ラベルの例

Label B (elements)

[Creator]		
[Title]		
[Day]	[Month]	[Year]
[Folio]		
[Attachment]		

Label B (sample)

Keynes, John Maynard.		
[Letter of Keynes, John Maynard. to Harrod, Roy. dated 21 July 1922.]		
21	July	1922
Folio:	1	
Attachment:	Envelope.	

図3 貼付ラベルの例

表1 目録の正誤表 Errata

Item No.	Elements	Was	Should be
8	Date	February 2nd 1927	February 4th 1927
34	Date	May 28th 1942	May 29th 1942
70	Date	November 1941	July 8th 1941
96/96-1	Date	July 22nd 1942	July 23rd 1942
98	Date	July 27th 1942	July 20th 1942
131	Creator	A. Playfair	Edward Wilder Playfair
180	Creator	BRIAN MCGUINESS	Brian McGuinness
181	Creator	BRIAN MCGUINESS	Brian McGuinness
182	Creator	BRIAN MCGUINESS	Brian McGuinness
183	Creator	BRIAN MCGUINESS	Brian McGuinness
184	Creator	BRIAN MCGUINESS	Brian McGuinness
185	Creator	BRIAN MCGUINESS	Brian McGuinness
186	Creator	BRIAN MCGUINESS	Brian McGuinness
187	Creator	BRIAN MCGUINESS	Brian McGuinness
219	Date	March 1923	April 12th 1923

表2 「ハロッド文書」内訳 Document Type

Document Type	Cat 1989	Cat 1989	Cat 2018	Cat 2018
letters	147	64.8%	167	50.9%
memoranda	58	25.6%	141	43.0%
postcards	14	6.2%	13	4.0%
manuscripts	5	2.2%	0	0.0%
slips	0	0.0%	5	1.5%
cards	1	0.4%	1	0.3%
drafts	1	0.4%	0	0.0%
off-prints	1	0.4%	1	0.3%
	227	100.0%	328	100.0%

Cat 1989: The catalogue made by Reily-Smith in 1989.

Cat 2018: The catalogue revised by the author in 2018.

表3 年別メモランダム

Memoranda:

Year		
1941	7	5.0%
1942	106	75.2%
1943	11	7.8%
1948	1	0.7%
(unknown)	16	11.3%
	141	100.0%

表4 年別書簡類

Letters and Postcards:

Year		
1922	10	5.5%
1923	12	6.6%
1924	10	5.5%
1925	4	2.2%
1926	9	5.0%
1927	6	3.3%
1928	2	1.1%
1930	2	1.1%
1931	4	2.2%
1932	3	1.7%
1933	4	2.2%
1934	1	0.6%
1935	4	2.2%
1937	2	1.1%
1938	4	2.2%
1941	6	3.3%
1942	65	35.9%
1943	6	3.3%
1944	1	0.6%
1946	1	0.6%
1948	4	2.2%
1950	1	0.6%
1953	9	5.0%
1955	2	1.1%
1974	7	3.9%
(unknown)	2	1.1%
	181	100.0%

表 5 書簡類の発信者 (1922-1974 年)
Letters and Postcards
(1922-1974): Correspondents

Correspondent		
Harrod, Roy.	52	28.7%
Keynes, John Maynard.	33	18.2%
Robertson, Dennis.	9	5.0%
Joseph, H.W.B.	6	3.3%
Price, Henry Habberley.	6	3.3%
Hayek, Friedrich.	5	2.8%
Hurst, Alfred William.	5	2.8%
McGuinness, Brian.	5	2.8%
Palyi, Melchior.	5	2.8%
Edgeworth, Francis Ysidro.	3	1.7%
Hopkins, Richard.	4	2.2%
Ronald, Nigel.	4	2.2%
Segall, Adele.	4	2.2%
Braithwaite, Richard.	3	1.7%
Ramsey, Frank.	3	1.7%
Robinson, Joan.	3	1.7%
Crick, Wilfred Frank.	2	1.1%
(unidentified)	2	1.1%
Clapham, John.	1	0.6%
Clauson, Gerard.	1	0.6%
Dr Mysom	1	0.6%
Dundas, R.H.	1	0.6%
E.F.J.	1	0.6%
Gaitskell, Hugh.	1	0.6%
Gottfried, Haberler.	1	0.6%
Hicks, John.	1	0.6%
Hirst, Francis Wrigley.	1	0.6%
Fisher, Irving.	1	0.6%
Kahn, Richard.	1	0.6%
Keynes, Florence Ada.	1	0.6%
Keynes, John Maynard. (secretary)	1	0.6%
Keynes, Lydia.	1	0.6%
Leith-Ross, Frederick.	1	0.6%
Leslie, Shane.	1	0.6%
Lindsay, Kenneth.	1	0.6%
MacGregor, David Hutchison.	1	0.6%
Morton, Desmond.	1	0.6%
Munby, Alan Noel Latimer.	1	0.6%
Phelps Brown, Henry.	1	0.6%
Playfair, Edward. Wilder.	1	0.6%
Stulz, Gunter.	1	0.6%
Taussig, Frank William.	1	0.6%
Turner, Martin.	1	0.6%
Whitehead, Alfred North.	1	0.6%
Wyllie, J.M.	1	0.6%

181 100.0%

表 6 書簡類の受信者 (1922-1974 年)
Letters and Postcards
(1922-1974): Recipients

Recipient		
Harrod, Roy.	124	68.5%
Keynes, John Maynard.	15	8.3%
Hopkins, Richard.	8	4.4%
Eady, Wilfred.	7	3.9%
Hurst, Alfred William.	5	2.8%
Nebel, Gerhand.	5	2.8%
Lindemann, Friedrick.	3	1.7%
McGuinness, Brian.	3	1.7%
Hayek, Friedrich.	2	1.1%
Ronald, Coarse.	1	0.6%
Barlow, Alan.	1	0.6%
Dalton, Hugh.	1	0.6%
Morton, Desmond.	1	0.6%
Adrian, Mrs.	1	0.6%
Munby, Alan Noel Latimer.	1	0.6%
(Professor, unidentified)	1	0.6%
Robbins, Lionel.	1	0.6%
Runciman, Walter.	1	0.6%

181 100.0%

表 7 ハロッド宛書簡の受信者
(1923-1974 年)
Letters by Harrod (1923-1974):
Recipients

Recipient		
Keynes, John Maynard.	13	25.0%
Hopkins, Richard.	8	15.4%
Eady, Wilfred.	7	13.5%
Nebel, Gerhand.	5	9.6%
Hurst, Alfred William.	4	7.7%
Lindemann, Friedrick.	3	5.8%
Hayek, Friedrich.	2	3.8%
McGuinness, Brian.	2	3.8%
Ronald, Coarse.	1	1.9%
Barlow, Alan.	1	1.9%
Dalton, Hugh.	1	1.9%
Morton, Desmond.	1	1.9%
Adrian, Mrs.	1	1.9%
Munby, Alan Noel Latimer.	1	1.9%
(Professor, unidentified)	1	1.9%
Robbins, Lionel.	1	1.9%

52 100.0%

表 8 年別ハロッド宛ケインズ宛書簡
Harrod's letters to Keynes: Year

1941	1
1942	12

13

表 9 ハロッド宛書簡の発信者
(1922-1974 年)
Letters to Harrod (1922-1974):
Correspondents

Correspondent		
Keynes, John Maynard.	32	26.0%
Robertson, Dennis.	9	7.3%
Joseph, H.W.B.	6	4.9%
Price, Henry Habberley.	6	4.9%
Hayek, Friedrich.	5	4.1%
Hurst, Alfred William.	5	4.1%
McGuinness, Brian.	5	4.1%
Palyi, Melchior.	5	4.1%
Edgeworth, Francis Ysidro.	4	3.3%
Ronald, Nigel.	4	3.3%
Segall, Adele.	4	3.3%
Braithwaite, Richard.	3	2.4%
Hopkins, Richard.	3	2.4%
Ramsey, Frank.	3	2.4%
Robinson, Joan.	3	2.4%
(unidentified)	1	0.8%
Clapham, John.	1	0.8%
Clauson, Gerard.	1	0.8%
Crick, Wilfred Frank.	1	0.8%
Dundas, R.H.	1	0.8%
Gaitskell, Hugh.	1	0.8%
Gottfried, Haberler.	1	0.8%
Hicks, John.	1	0.8%
Hirst, Francis Wrigley.	1	0.8%
Fisher, Irving.	1	0.8%
Kahn, Richard.	1	0.8%
Keynes, Florence Ada.	1	0.8%
Keynes, Lydia.	1	0.8%
Leith-Ross, Frederick.	1	0.8%
Leslie, Shane.	1	0.8%
Lindsay, Kenneth.	1	0.8%
MacGregor, David Hutchison.	1	0.8%
Morton, Desmond.	1	0.8%
Munby, Alan Noel Latimer.	1	0.8%
Phelps Brown, Henry.	1	0.8%
Playfair, Edward. Wilder.	1	0.8%
Stulz, Gunter.	1	0.8%
Taussig, Frank William.	1	0.8%
Turner, Martin.	1	0.8%
Whitehead, Alfred North.	1	0.8%
Wyllie, J.M.	1	0.8%

123 100.0%

表 10 年別ケインズ発ハロッド宛書簡
Keynes' letters to Harrod: Year

1922	2
1926	2
1927	4
1931	2
1933	1
1934	1
1935	3
1938	2
1942	13
1943	2

32

表 11 旧来の資料保管方法
Former storing

Box	Sub No	Subject	Item	Folio
1	I	John Maynard Keynes: Correspondence with Roy Harrod 1922-1928	21	24
1	II	John Maynard Keynes at The Treasury: January 1941-February 1943	55	197
1	III	Keynes at Eton and Cambridge: Recollections by His Best Friend & Contemporary	1	2
2	IV	Roy Harrod's Economic Memoranda and Papers: November 1941-January 1943	123	671
3	V	Roy Harrod Economic Correspondence: November 1941-January 1943	43	68
3	VI	Roy Harrod's Correspondence from Economists & Others	85	96

328

1058

- 1) 以下ハロッドに関する伝記的記述は、*Oxford Dictionary of National Biography* を参考にした。https://doi.org/10.1093/ref:odnb/31206 (最終アクセス 2019 年 1 月 9 日)
- 2) オクスフォード大学固有の名称であり、フェローに相当する。
- 3) ただし後述のとおり、第 2 次世界大戦中の 1940 年から 1942 年にかけてオクスフォード大学での経歴を中断している。
- 4) Daniele Besomi ed., *The collected interwar papers and correspondence of Roy Harrod, vol. 1: Correspondence, 1919-35* (Cheltenham: Edward Elgar, 2003), p. xxxi.
- 5) 冊子体目録には、John Maynard Keynes at the Treasury Jan. 1941 - Feb. 1943 Correspondence and Memoranda with Roy Harrod with Earlier Keynes Letters 1922-1938 and Roy Harrod's Correspondence with Other Economists と併記されている。
- 6) 後述するが、同資料はハロッドの遺族から引き継がれ、分量的に見てもハロッドを作成者とするものが最多である。
- 7) 代理店は丸善株式会社が務めた。
- 8) ただし冊子体目録の索引では、III. Swithinbank's Recollections of Keynes at Eton and Cambridge: Autograph Manuscript 1948. とされている。
- 9) より正確には、書簡・葉書・カード・メモランダム・スリップ・抜刷の 6 種に分類した。
- 10) 詳しくは、吉川洋「ケインズ/ハロッド文書」『経済資料研究』No. 28 (1998 年 3 月)、40-43 頁を参照されたい。http://hdl.handle.net/2433/79821 (最終アクセス 2018 年 11 月 22 日)
- 11) たとえば資料番号 1 の記述は次の通り。1. JOHN MAYNARD KEYNES typed letter signed to WALTER RUNCIMAN. July 7th 1922, 1 page, from 46 Gordon Square, Bloomsbury. "... I should be very glad to see Mr Harrod. If you would ask him to put himself into communication with me near the time, I will try to fix an appointment." With envelope addressed to Roy Harrod in France and initialled in ink W.R.
- 12) 最も多いのは文書資料に添付されたスリップで、イギリス政府の公文書であることを示すもの。
- 13) S は supplement の語から採った。なお同資料は、IV. Roy Harrod's Economic Memoranda and Papers: November 1941 - January 1943 に含まれる。
- 14) エントリ数は 335 だが、再整理の結果 7 エントリが空番号になったため。
- 15) 書店に向けた目録規則に Laurence Worms, *Cataloguing for booksellers: a guide for the rare books trade* (London: Rare Book Society, 2015) がある。だが同規則が図書を中心に行っていることは Author, Title, Imprint, Edition, Physical description, Binding, Condition, Note, Provenance, References, Price という 11 の章立てからも明らかで、たとえば「物理的記述」の章は、巻数・判型・校合式・ページネーション・図版に関する記述に費やされている。
- 16) International Council on Archives, *ISAD(G): General International Standard Archival Description*, 2nd ed., (Ottawa, 2000), p. 12.
- 17) マルチレベル記述の規則は 4 つある。すなわち、第 1 に各記述は「全体から個別」の順を守り、第 2 に各記述ではそのレベルに適した情報のみを与え、第 3 に各記述は上位記述と関連づけることで階層を明確にし、第 4 に上位記述ですでに与えられている情報は下位において反復しない。International Council on Archives, *ISAD(G): General International Standard Archival Description*, 2nd ed., (Ottawa, 2000), p. 12.
- 18) 一方、日本における歴史資料の記述では「個別から全体へ」という発想が根強く、「資料群の概要情報は、解

説・解題のある資料目録をのぞいて、おおくの資料目録では示されることはない」(五島敏芳「アーカイブズ情報の電子化・保存と共有化の動向」『情報知識学会誌』第 17 巻第 4 号(2007 年)、218 頁。https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/17/4/17_4_217/_pdf 最終アクセス 2018 年 11 月 22 日)。個が明らかでなければその集積である全体は見えないという理念の正しさは揺るぎないが、資料整理費が逼迫を続けるなか所蔵機関が完璧な形での公開を期するあまり資料を抱えこんでしまうのは利用者にとって最悪のシナリオである。

¹⁹⁾ 2018 年 12 月現在でライリー=スミスが公開している *John Stuart Mill and his father James Mill: autograph letters & rare books* のカタログでも「ハロッド文書」と同じくアイテム・レベルの記述方式が採られている。<http://www.riley-smith.com/hamish/gfx/media/home/pdfs/millcatalogue2018com.pdf> (最終アクセス 2018 年 12 月 5 日)

²⁰⁾ 箱の背表紙には濃い緑色のモロッコ革製のラベルが貼られ、金色で刻字がなされていた。

²¹⁾ ただし、添付資料の枚数はこれに含まない。Box 2, Box 3 についても同様。

²²⁾ 厚みを除く箱の大きさは共通で、いずれも縦 390mm 横 250mm となっていた。